

平成30年度事業報告

自 平成30年4月 1日

至 平成31年3月31日

厚生労働省が発表した2018年の高齢者の雇用状況調査によりますと、定年後の雇用継続や定年制の廃止で70歳以上になっても働ける制度のある企業が25%を超えています。さらに政府は、継続雇用の年齢を70歳に引き上げる方向で法改正を検討しており、今後のシルバー人材センターの事業運営への影響が懸念されています。こうしたこともあって、会員の平均年齢も上がる傾向にあり、仕事はあるものの対応できる会員の確保が難しい状況が生まれています。

このようにシルバー人材センターを取り巻く環境変化が見られる中、本年度の契約額は290,806千円、前年対比103%と増額となり、設立当初からの目標であります契約額3億円にもう少しの状況となっています。また、会員数については、前述しました理由等も影響し、入会者76名に退会者89名で13名の減の526名となりました。

こうした依然として運営は厳しい状況でありましたが、平成30年度はこれまでの安全就業、就業態勢の強化、就業機会の開拓・拡大と共に福祉・家事援助サービス、子育て支援、介護保険サービスの推進を図り、活力ある地域づくりに貢献しました。

次に主な事業について報告します。

- ▶ 就業会員の増強、就業機会の開拓・拡大と就業率の向上に努める。
 - ✓ 会員のロコミ、市広報（10月）、会報（新年号）、ホームページ、マスメディア（1月）等を利用し会員増強を図りました。
 - ✓ 就業開拓・会員拡大推進員と共に企業訪問（市役所含む）を6ヶ所行い、就業開拓を行いました。
 - ✓ 14業務の特定業務指定や就業ローテーション化などにより、公平な就業機会の提供に努めました。
 - ✓ 毎月求人情報を提供し、就業機会の拡大を図りました。
- ▶ 普及啓発事業を推進する。
 - ✓ 剪定及び草刈、清掃等の地域奉仕作業(年3回)をおこない会員相互の連携を深め、シルバー人材センターの普及啓発に努めました。

- ✓ 県下一斉普及啓発 Day(10月20日)に、社協主催の市内福祉イベントに参加し、当センターの事業PR及び会員の加入促進をおこないました。
- ✓ 会員及び市民を対象に参加型講習会を開催し、シルバー事業の理解を深めました。
- ✓ 交通安全早朝一斉街頭広報(年4回)に参加しました。
- ✓ 会報「シルバー伊豆の国市」の発行及び市カレンダー、ホームページ、配分金通知を活用し、会員及び市民への情報提供に努めました。
- 会員の就業意識、技能の習得を図る。
 - ✓ 会員の技能習得を目的に「生活支援・介護予防」技能講習会及び子育て支援人材育成講習会を計7日開催し、31名が受講しました。
- 安全就業対策と健康管理に努める。
 - ✓ 交通教室及び動画 KYT 研修などの自動車安全運転講習会に、54名の会員が参加しました。
 - ✓ 就業前の「KY チェックシート」の活用を図り、安全意識の高揚を図りました。
 - ✓ 安全就業委員会が抜打ち安全パトロールを3回、12月に安全コンクールを施行で実施するなど、会員の事故防止に向けた取組を行いました。
 - ✓ 会員に対し、市の健康診断受診を推進しました。
- 福祉・家事援助サービスを推進する。
 - ✓ 人手不足分野である「生活支援・介護予防」や「子育て支援」に関する技能講習会を開催し、女性会員の加入促進を図りました。
- 財政基盤の強化と事務局機能の効率化を推進する。
 - ✓ 就業機会の開拓・拡大を行い、受託収益の増加に努めました。
 - ✓ 職員会議を開催し、歳出抑制や事務の効率化に向けた協議を行い、経常経費等の削減に努めました。